



## 2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年8月10日

上場会社名 HYUGA PRIMARY CARE株式会社 上場取引所 東  
コード番号 7133 URL <https://www.hyuga-primary.care>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 黒木 哲史  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役最高財務責任者 (氏名) 大西 智明 TEL 092-558-2120  
四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の業績 (2022年4月1日～2022年6月30日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	1,534	—	128	—	137	—	91	—
2022年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	26.17	24.36
2022年3月期第1四半期	—	—

(注) 1. 当社は、2022年3月期第1四半期において四半期財務諸表を作成していないため、2022年3月期第1四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2023年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	2,621	1,171	44.7
2022年3月期	2,531	1,072	42.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 1,171百万円 2022年3月期 1,072百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年3月期の業績予想 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,316	9.2	591	14.0	590	16.6	446	35.9	126.97

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料6ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料6ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期1Q	3,519,500株	2022年3月期	3,499,100株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	一株	2022年3月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期1Q	3,506,129株	2022年3月期1Q	一株

(注) 1. 当社は、2022年3月期第1四半期において四半期財務諸表を作成していないため、2022年3月期第1四半期の期中平均株式数は記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	6
(会計方針の変更) .....	6
(セグメント情報等) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、ワクチン接種が進んでおりますが、新たな変異株の出現による感染再拡大が懸念されるなど、先行きは依然不透明な状況となっております。

当社の属する医療・介護業界においては、オンライン診療の規制緩和措置が拡大し、調剤報酬改定による薬価の下落、在宅分野の点数が強化されるなど、薬局経営においても本格的に在宅医療への参入が求められている状況となっております。

このような経営環境のなか、当社は、企業理念である「患者さん（利用者さん）が24時間365日、自宅で「安心」して療養できる社会インフラを創る」を実現するため、急成長しているきらりプライム事業を今後の事業展開の中核に据え、きらりプライム加盟店の増加、在宅訪問薬局の新規開局、新たな事業・サービスの開発を進めるなどして、当社の目指す「プライマリーケアのプラットフォーム企業」に向け活動してまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は1,534百万円となり、利益面では営業利益が128百万円、経常利益が137百万円、四半期純利益が91百万円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### (在宅訪問薬局事業)

在宅訪問薬局事業では、新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、店舗では引き続き感染対策を実施し、患者様及び従業員の健康を守る取り組みを行っております。調剤報酬改定の影響としては、薬価が下落する一方で在宅分野（地域体制加算等）は増加しており、従来の外来型薬局の経営においては厳しさが増すなかで、当社のような在宅患者対応に強みがある企業には追い風となっております。当第1四半期末時点における在宅患者数は8,018人（前年同四半期末比8.0%増）と好調に推移しており、2022年4月には「きらり薬局清川店」（福岡市中央区）及び「びよんた薬局」（北九州市戸畑区）を開局し、引き続きドミナント出店戦略を推進しました。

以上の結果、売上高は1,351百万円、セグメント利益は147百万円となりました。

#### (きらりプライム事業)

きらりプライム事業は、中小規模の薬局と提携し、効率的な在宅薬局の運営ノウハウの提供、人材研修、24時間対応のためのオンコール体制の支援、在宅薬局特化型の在宅訪問支援情報システム（ファミケア）の貸与及び医薬品購入の支援などのサービスを行っております。中小規模の薬局における在宅型薬局へのシフトチェンジが求められるなか、当事業では営業体制の強化及びWeb広告による加盟店増加施策を実施することなどにより、当第1四半期末時点で加盟法人数は459社（前年同四半期末は266社）、加盟店舗数は1,275店舗（前年同四半期末は701店舗）となり、加盟薬局数は大幅な増加を続けております。また、きらりプライム加盟店に向けた会員webサイトの立ち上げ、在宅薬局で働く薬剤師向けの教育コンテンツの開発など、引き続き加盟店の在宅薬局運営を支援するサービスの拡充に取り組みました。

以上の結果、売上高は133百万円、セグメント利益は79百万円となりました。

#### (ケアプラン事業)

ケアプラン事業では、在宅訪問薬局事業、タイサボ事業で生まれた在宅患者、高齢者施設との関係性を生かし営業活動を行っております。第1四半期では西日本エリア3拠点、東日本エリア1拠点で、各事業所の事業体制強化に取り組み、1事業所及びケアマネージャー一人当たりの稼働を上げ収益性の向上を目指してきました。

以上の結果、売上高は32百万円、セグメント利益は5百万円となりました。

#### (タイサボ事業)

タイサボ事業は、医療介護の専門スタッフが、高齢者施設等への入居を検討される利用者様の医療依存度及び介護度の高さに対応し、その利用者様のご要望などを満たした施設を提案・紹介し、サポートするサービスであります。当第1四半期においては、医療・介護ネットワーク（医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー及び介護施設との連携網）を強化し、在宅訪問薬局事業及びきらりプライム加盟店へのシナジーを上げるため、人的リソースを配置することに注力しました。

以上の結果、売上高は15百万円、セグメント損失は2百万円となりました。

## (その他事業)

当社のその他事業には、ICT事業及び2022年12月開設を目指す高齢者施設運営事業を含めております。ICT事業においては前期に販売したICTデバイスについて高齢者施設の使用に関するフィードバックを得て、入居者のバイタル情報だけでなく、ベッドの離床センサー開発及びウェアラブル端末との統合など、新たな機能を追加開発しており、より高齢者施設の運営効率化につながる改良を続けております。新たに開始する高齢者施設運営事業と連携し、当社が開発したICTデバイスを組み込み、実際の高齢者施設での運用方法を確立し、営業に生かすことで拡販を目指してまいります。

また、当第1四半期末時点では、高齢者施設運営事業において介護、看護人材の採用活動を開始し、本格的な開設準備に取り組んでおり、コストが先行する形となりました。

以上の結果、売上高は1百万円、セグメント損失は12百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は1,962百万円となり、前事業年度末に比べ66百万円増加いたしました。これは主に、売掛金の回収により現金及び預金が35百万円増加したこと及び新店舗の開局等により商品が38百万円増加したことによるものであります。

固定資産は658百万円となり、前事業年度末に比べ23百万円増加いたしました。これは主に、在宅訪問支援情報システム（ファミケア）の改修等により無形固定資産が17百万円増加したことによるものであります。

その結果、総資産は2,621百万円となり、前事業年度末に比べ89百万円増加いたしました。

## (負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は1,255百万円となり、前事業年度末に比べ20百万円増加いたしました。これは主に、法人税等の支払いにより未払法人税等が62百万円減少したものの、新店舗の開局に伴う仕入増加等により買掛金が79百万円増加したことによるものであります。

固定負債は193百万円となり、前事業年度末に比べ30百万円減少いたしました。これは主に、長期借入金が約定返済等により31百万円減少したことによるものであります。

その結果、負債合計は1,449百万円となり、前事業年度末に比べ9百万円減少いたしました。

## (純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は1,171百万円となり、前事業年度末に比べ99百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が91百万円増加したことによるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年5月12日の「2022年3月期 決算短信」で公表いたしました業績予想から変更はありません。なお、当該業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	719,557	754,947
売掛金	996,103	987,902
商品	156,172	194,634
その他	24,224	25,335
流動資産合計	1,896,058	1,962,819
固定資産		
有形固定資産	209,558	217,872
無形固定資産	295,761	312,796
投資その他の資産	130,226	127,983
固定資産合計	635,546	658,652
資産合計	2,531,605	2,621,471
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	632,721	711,723
1年内返済予定の長期借入金	136,400	131,598
未払法人税等	114,560	51,701
賞与引当金	91,057	96,225
その他	260,839	264,693
流動負債合計	1,235,577	1,255,942
固定負債		
長期借入金	193,814	162,134
資産除去債務	29,948	31,544
固定負債合計	223,762	193,678
負債合計	1,459,340	1,449,620
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	171,915	175,832
資本剰余金	321,925	325,842
利益剰余金	578,423	670,176
株主資本合計	1,072,264	1,171,850
純資産合計	1,072,264	1,171,850
負債純資産合計	2,531,605	2,621,471

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	1,534,780
売上原価	1,174,809
売上総利益	359,970
販売費及び一般管理費	231,201
営業利益	128,769
営業外収益	
補助金収入	9,086
その他	221
営業外収益合計	9,307
営業外費用	
支払利息	476
その他	47
営業外費用合計	523
経常利益	137,553
税引前四半期純利益	137,553
法人税等	45,800
四半期純利益	91,752

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当第1四半期累計期間(自2022年4月1日 至2022年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 事業 (注3)	合計	調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	在宅訪問 薬局事業	きらり プライム 事業	ケアプラン 事業	タイサポ 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	1,351,250	133,862	32,483	15,408	1,533,005	1,774	1,534,780	—	1,534,780
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,351,250	133,862	32,483	15,408	1,533,005	1,774	1,534,780	—	1,534,780
セグメント利益 又は損失(△)	147,235	79,508	5,801	△2,561	229,983	△12,866	217,117	△88,347	128,769

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ICT事業及び高齢者施設運営事業であります。